

部活動実績 1年生大会 高校総合文化祭・ほか

Table with columns for event name, category, individual/team, and results. Includes events like '第40回宮崎県高等学校ジュニア陸上競技選手権大会' and '平成26年度NHK杯全国高校放送コンテスト宮崎県予選'.

平成二十七年年度OB祭実行委員長あいさつ



平成二十七年年度OB祭実行委員長 中村 昭人

平成二十七年年度高鍋高校OB祭を担当いたします。平成四年卒業生を代表し、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。二十六年度OB祭を担当しました古川委員長率いる三年卒の先輩方、大変お疲れ様でした。私自身、始めて総会から交流会まで参加させて頂きました。総会の中で先輩たちが激しく意見をぶつけ合う姿を見て、改めて高鍋高校の伝統と、そ



発行 宮崎県立高鍋高等学校 同窓会
宮崎県児湯郡高鍋町 大字北高鍋 4 2 6 2
TEL 0983・23・0005
FAX 0983・23・5096
URL http://www.narumigaoka.jp/

平成二十六年年度OB祭実行委員長あいさつ



平成二十六年年度OB祭実行委員長 古川 誠

今年度のOB祭は、平成三年卒業生が担当させていただきました。OB祭の開催にあたり、さまざまな縁を大切に、諸先輩方が受け継いでこられた母校の伝統を未来に繋げていこうという思いを込め、「縁（照らせ未来を）」をテーマに掲げ、同窓生三丸となつて準備を進めてまいりました。八月十五日に開催されたゴルフコンペは不安定な天候の中でプレイとなりましたが、二百人以上の方々にご参加いただき、熱気溢れる大会になったのではないかと考えております。八月十六日に開催された記念講演では、講師としてお迎えした野球評論家の野村克也さんより「夢を持つことの大切さ」という演題で講演をいただきました。幼少期のお話や選手時代、監督時代のエピソードなど、予定時間を大幅に超えて熱心にお話しいただき、詰めかけた多くの来場者にとっても満足いく内容だったと思わ

各支部からの報告

関西同窓会報告

関西支部事務局長 久米 喜美子

高鍋高等学校関西同窓会の総会は、七月十九日（土）十二時から道頓堀ホテルで開催され、七十三名の方にご出席いただきました。第一部の総会は、高鍋高等学校同窓会増田会長、高鍋高等学校早日渡校長、近畿宮崎県人会貫副会長の三名からご挨拶を頂きました。議事に移り、平成二十五年度の事業報告、会計報告、監査報告及び平成二十六年度の事業計画等が提案され、拍手により承認可決されました。第二部の懇親会は、高鍋高等学校同窓会猪股事務局長の母校の近況紹介に続き高鍋高等学校同窓会見玉事務局長の乾杯で始まりました。そして今年度も高鍋高校OB祭新田実行委員の方々が宴を盛り上げてくれました。途中で関西若潮同窓会渡邊会長と兵庫宮崎県人会吉原幹事長の近況報告等がありました。カラオケで自慢の唄を披露して下さる方もあり、お国言葉がとびかう和やかな懇親会となりました。恒例のカーフェリーの無料チケット等が当たるお楽しみ抽選会では、皆さん一喜一憂してほほえましく思いました。沢山のお品を提供していただきました。誠にありがとうございました。最後にみんなでふるさとを合唱し、万歳三唱で締めくくり、来年の再会を誓いおひらきと致しました。暑さ厳しき折ご出席いただきまして誠にありがとうございます。皆様方本当にありがとうございました。



在京同窓会

在京同窓会 事務局長 児玉 博

東京支部の総会は、七月五日（土）、大手町のサンケイプラザホールで開催致しました。高鍋の方からは、増田会長、早日渡校長、猪股先生、それに、前年度及び今年度のOB祭実行委員の方たち（十名）のご出席を得て、参加者総数は百三十八名となりました。残念ながらこの数は、昨年より二十名ほど減少しております。増田会長、並びに早日渡校長のご挨拶では、学校経営が厳しい状況に置かれている中、その現状打破に向けての強い決意をお伺いしました。私たちOBも、母校の飛躍を願い、可能な限りの援助をしたいものです。次にフォーラムでは、S三十二年卒の大澤忠廣さん（現在、ヤマザキ学園事務局長）から、「上海市街の子供たち」という演題で講話を頂きました。漢字の発祥地である中国では、現在、その漢字文化の変質が懸念されるということです。また、今年も、協賛の品として、高鍋黒木本店様（焼酎）、川南甲斐製茶様（お茶）及び都農町役場（ワイン）から、郷土の名産品を多数頂戴しました。加えて、在京会員の企業から食券券、鉢花、美容剤等を頂き、抽選会は大いに盛り上がりました。あらためて、ご協賛頂いた企業と、暑いさなかにご臨席頂いた、ご来賓の方々から心からお礼を申し上げます。なお、来年の開催は、七月四日（土）を予定しております。ご都合をつけて、どうぞご出席下さい。お待ちしております。



平成二十六年年度高鍋高校OB祭を終えて



事業推進局長 増田 浩史

平成二十六年年度高鍋高校OB祭は私たち平成三年卒業生が担当となり、一年以上にわたり各種事業を進めてまいりましたが、全員が初めての経験で私自身も最初は大きな戸惑いを抱いていたことを今でもはっきりと覚えています。特に、私が担当した事業推進局は、広告協賛及び記念講演のチケット販売といった事業を進めるために必要な収入の確保という大変責任の重い役割を担っていたことから、不安な毎日を送っていました。快く広告掲載にご協賛いただきました事業所の皆様、記念講演のチケットをご購入いただきました皆様、記憶講演のチケットをいただきました皆さまの御厚情、そして何より不甲斐ない局長を支えてくれた広報部会、販売部会の部会員の努力によるものであり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。さて、OB祭も終わり、今は次の実行委員会への引継ぎをきちんと行うことができるようその作

明倫奨学生近況報告

九州大学理学部地球惑星科学科

馬渡大輝

はじめに、明倫奨学生としてご支援いただいていることに対して感謝の意を表したい。

このたびは「近況報告のレポート」ということから、自分の大学生活の前期分を振り返りたいと思う。まず、学業面について述べる。大学に入り、学習内容が難しくなったことは言うまでもないが、さらに注目する点は「自ら学習する」ということである。これは高校での教科書を読むだけの予習ではなく、自ら図書館やインターネットで調べるといったものである。大学と高校の勉強は自学の量が決定的に異なるということを知った。ほかに、高校ではあまりなかったグループで調べて発表するという時間は新鮮だった。様々なバックグラウンドをもった学生と話し合うことが面白く、よい刺激となることも多かった。次に生活面について述べる。一人暮らしを始めたわけだが、すべて

が自由である分、生活習慣が崩れやすくなってしまった。高校生のときは無意識のうちに家族との生活の中で自分の生活を送っていたのだと気づいた。また、アルバイトをすることでお金のありがたみを知ることでもきた。学業面、生活面ともに多くの発見があった前期であった。おわりに、今振り返ってみると、高校での生活があったからこそ現在の自分があると改めて感じる。そして今後も鳴海ヶ丘会を通して高鍋高校にご支援いただくことになる。卒業後も支えてくれる高鍋高校に対して自分が還元できることは何だろうか。それは高鍋高校にいる後輩にとって、彼らの目標を支える一例としての先輩になることかなと思う。そのためにも主体的な学習やセミナーを心がけるとともに、留学などの新たなことにチャレンジしていくことでそのような人物に近づきたい。

鳴海ヶ丘祭を振り返って

生徒会長

神林 光



今年の高鍋高校鳴海ヶ丘祭は、「NANA NANA」鍋高・鳴祭・まつたなし」このテーマを掲げて二ヶ月間、実行委員会や生徒会、各団の団長やリーダーを中心にクラス合唱委員や学級創作に携わった人、部活動生や鳴祭を盛り上げてくださった人、観て楽しんでくださった人、鳴祭に関わってくださったすべての人たちのおかげで大成功を収めることができました。心より感謝を申し上げます。

は、クラスで団結している姿や個性豊かな作品、体育の部では、団のために全力でプレーする姿や、声が枯れるまで応援する姿、すべてのシーンがキラキラと輝いていて、高鍋高校生の団結力と無限の可能性を感じました。一人一人が力を合わせ、全力を尽くすことでどんなことでも成功させることができます。日々の学校生活や、今後の行事でもこの鳴海ヶ丘祭で学んだことを活かして、さらに一人一人が輝ける学校をつくっていきましょう。

鳴祭を終えて

301 杉田さやか



先日の体育大会は、とても素晴らしいものになりました。私が副団長になりましたが、リリーダーの支えがあり最後までやり遂げることができました。毎日の練習が楽しくて、終わらないでほしいと思っていました。

体育大会当日、私は今までになく緊張を覚えました。でも、みんなのやる気や笑顔を見て、高校最後の鳴祭を全力でやり抜こうと思えました。応援や競技では、今までになく盛り上がりがありました。結果は、応援優勝と団技優勝の二冠をとることができました。二冠をとれたのは、裏で演舞やダンスを考えてくれる人たちが、先頭に立ってみんなを率いてくれたこと、副団長を最後までやり切ったことが、私を大きく成長させてくれました。この経験を生かして色々な事に挑戦していきたいです。

ありがとう

302 小松 愛沙美

九月五日、私達の鳴祭が終わりました。副団長になったばかりの頃は、リリーダーとして黄団をうまくまとめることができたか不安でいっぱいでした。しかし、団長・副団長・リリーダー・補佐みんな頼りになり、順調に準備ができました。また、黄団のみんなもとても乗りが良く楽しく応援ができました。途中ダンスの時に音楽が止まったというアクシデントがありましたが、自分達で歌を歌って乗り越

えた時は黄団の底力を感じ感動しました。最後の応援では、みんながシャナナを上げて盛り上がりました。三冠を飾るという以前に黄団みんな笑顔で盛り上がりかけたことがとても楽しかったです。この黄団のメンバーじゃなかったらこんな盛り上がりはなかったと思います。また、団長・副団長・リリーダー・補佐のみんなに迷惑をかけることもありましたが、みんなと一緒に黄団を盛り上げてよかったです。「本当にありがとう」

鳴海ヶ丘祭を終えて

307 財満 美南海

先日、高鍋高校最大の行事である鳴海ヶ丘祭が幕を閉じました。私は、青団副団長を務め、リリーダーや補佐と共に団長を支えてきました。練習期間が短い中で、最高の体育祭を作りあげたために団長を中心に意見を話し合いながら練習を重ねてきました。青団を優勝に導くため全力で取り組まれました。青団が一番力を入れたところはダンス披露です。特

に振り付けにこだわり、団員みんなが覚えやすく、そして楽しくおどれることを目標に作りました。その思いが通じたのか本番ではみんな笑顔でおどることができました。天候のせいで途中競技がなくなってしまうこともありましたが、みんな一致団結して最後までやり遂げることができました。惜しくも優勝旗を取ることができませんでした。各団例年以上の盛り上がりで終わることができたので、今回貴重な体験をさせて頂き自分自身成長することができました。

鳴海ヶ丘祭 ファッションショーを終えて

307 松生明日香

半年前から準備をはじめ、毎日大変でしたが三〇七らしい発表ができたと思います。ウエディングに出演した人は、自分のイメージしたドレスに近づき、夏休みや放課後を使って何度もやり直し、気持ちのこもったドレスを作り上げました。前半に出演した人は、服作りだけでなく限られた時間の中でどのように演出するかを工夫してきました。裏方は音響や照明など慣れない作業をやりとげました。一人一人が自分の担当を取り組む中でクラスの団結をより深めることができた、何より思い出として残りました。

また、全校生徒と一緒に盛り上がりつつあったと考えると、オルマわしは、みんなが参加してくれ、とても嬉しく感動しました。今回のファッションショーを成功できたのは多くの方々の協力があったからです。生徒会、実行委員をはじめ、協力して頂いた皆様、本当にありがとうございました。

なんきんはぜ

高鍋高校を卒業してはや十二年、いつかは母校に戻って教鞭をとりたいと思いつつ、このたび思いが叶った次第です。新任式で生徒たちが歌ってくれた校歌は大変懐かし、改めて身が引き締まる思いでした。

さて、私は歴史と公民が担当教科ですが、心の底から歴史という学問が好きです。人間ドラマが好きです。時代背景や人物の置かれた状況の説明に本筋とはそれたエピソードを語るということがありますが、生徒の「へえ」という反応が返ってくる、この道を選んでよかったなあと感じます。

「歴史は暗記教科だから苦手」という声をよく耳にします。そうですね。確かに人物名や事件名、遺跡や芸術作品など、どうしても覚えておくべき事柄は多いと思います。そうした時に「歴史って面白い」と思える「何か」、興味・関心をひく「何か」があると記憶のしやすさが断然違ってきます。私は小説を読むのも良いし、漫画やゲームでも良いと思っています。例えば徳川家康について何も知らない真っ白な状態で授業を受けると全てを新しく覚えなければいけません。他の媒体で知っていたら、まず名前を覚える手間が省けます。さらに、その人物のエピソードなど知っていれば関連づけができます。まず忘れることではなく、人物の名を単に単語として記憶するより、他の人物や出来事と興味・関心を持って関連づけて覚える方が断然楽しいし、効率も良いのです。

ですから、私は生徒に歴史上の人物のエピソードを紹介し、いろいろなものに触れるよう促します。漫画やゲームでも歴史に関心を持てれば、誤った理解をしていけば修正していけばよいと私は思っています。学校で学んでいる間はそれが可能ですし、社会に出て、鍋高生の素直に人の話を聞く態度があれば、それは可能だと思います。歴史は楽しい学問ですよ。(丸尾)

